

「日本の長寿を祝う風習」について

2020年1月19日 小嶋一郎

私は今年傘寿（さんじゅ）になる事を機会に日本の長寿を祝う風習を紹介したいと思います。

日本には長寿を祝う風習がある事をご存知と思います。

私は今年（令和2年）4月19日に満79歳になります。これは傘寿（さんじゅ）と言われ、傘寿のお祝いは、数え年で80才を迎える年に行います。このことから、数え年で80才と言うと満年齢では79才ということになり今年私は該当し子供たちが祝ってくれました。

また16日から2泊3日の温泉旅行に伊豆下田の観音温泉に行きましたが、ここでも私の傘寿を祝ってくれました。

以下にインターネットウィキペディアで調べた結果ですが「長寿を祝う日本の文化、風習」を紹介いたします。

傘寿の意味(傘寿とは)

傘寿はさんじゅと読み、長寿祝いの一つで80歳にお祝いすることを言います。

なぜ80歳のお祝いを傘寿と呼ぶのかということ、傘という漢字の略字が縦書きにすると八十と見えることから、この名が付いたと言われています。

他にも傘という漢字が末広がりの八に似ているという説もあります。

末広がりが縁起がよいとされるのは、先に行くにつれ徐々に広がることから、栄えることを意味しているからです。

なお、80歳というのは数え年でお祝いすることになっているので、79歳が傘寿ということになります。

最近では、満年齢で80歳になったときにお祝いすることもあります。

傘寿のお祝いは紫色か、黄(金茶)色と一般的に言われています。

紫は喜寿や古希のように長寿への経緯から陰陽五行説に基づいて、紫は水を表しており、古来より気品のある色、高貴な色として位の高い人が身につける色でした。

なお、黄(金茶)は稲穂の色からお祝いの色としたという説もあり、東北地方などお米を多く作る地域ではこの色を傘寿の色としています。

お祝いの品としては黄(金茶)や紫色と基本としたちゃんちゃんこや、花、家族で旅行や食事などが一般的です。

傘寿の実際

日本では、長寿祝う文化があり、60才は還暦、70才は古希、77才は喜寿。と年の節目で呼び名がつき、それぞれでお祝いをする風習があります。

ただし、2016年の日本人の平均寿命は女性 87.14 歳、男性 80.98 歳と、過去最高を更新したことから、還暦や古希が長寿のお祝いと言っても少し違和感を感じる方もいるかもしれません。

その点、傘寿は長寿祝いとして違和感のない節目かもしれません。

そして、昔に比べて60歳は身体的に10年は若返っている。という説もあるように80歳でも健康でいきいきと生活されている人も少なくありません。

最近『傘寿まり子』（著者：おざわ ゆき/出版：講談社）という80歳の「まり子」が友人の[孤独死](#)や同居している子供家族とのすれ違いを受けて自分の人生を考え直すため家出をする。といった80歳がヒロインの漫画も登場しています。

長寿祝いの基礎知識（古希/喜寿/傘寿/米寿/卒寿/白寿）



長寿祝いの種類

長寿を祝う節目の年齢には、還暦や古希、喜寿などの名称があります。本来は数え年で祝いますが、現在では満年齢で祝うことが多くなってきています。ただし、還暦だけは数え年で61歳、満年齢60歳でお祝いします。

以下、主な長寿のお祝いをご紹介します。

還暦…61歳（満60歳）

生まれた年の干支に還ることから、「還暦」と呼ばれるようになりました。赤いちゃんちゃんこの風習があり、**赤**が長寿祝いの色とされています。

古希（古稀）…70歳

中国の唐時代の詩人、杜甫の詩の一節である「人生七十古来稀なり」に由来しています。現代では還暦よりも本格的な長寿の祝いと考えられているようです。**紫**が長寿祝いの色とされています。

喜寿…77歳

「喜」という字の草書体が七を3つ重ねた形になり、七十七と読めることに由来しています。紫が長寿祝いの色とされています。

傘寿…80歳

「傘」の略字が八と十を重ねた形になり、八十と読めることに由来しています。黄（金茶）が長寿祝いの色とされています。

米寿…88歳

「米」の字をくずすと八十八と読めることに由来しています。黄（金茶）が長寿祝いの色とされています。

卒寿…90歳

「卒」の略字である「傘」が九十と読めることに由来しています。白が長寿祝いの色とされています。

白寿…99歳

百から一を引くと「白」となることに由来しています。白が長寿祝いの色とされています。

紀寿または百寿…100歳

100年が一世紀ということから紀寿、また100歳であることから百寿と呼ばれています。白が長寿祝いの色とされています。

100歳を超えた長寿祝いには、108歳の茶寿や111歳の皇寿、120歳の大選暦があります。また、250歳で天寿というものもあります。

長寿祝いの祝い方

お祝いをされる方が主催となりお祝いの会を開いていましたが、現代では家族や身近な人がお祝いの会を開くことが一般的なようです。特に決まった祝い方はありませんので、お祝いされる方の意向に沿った形がよいでしょう。健康状態によっては長時間の祝宴や旅行の招待などは負担になる場合もありますので、祝い方に配慮する必要があります。

長寿祝いのお祝い品&金額の相場は？

人生の区切りとなるお祝いなので、消耗品以外がおすすめ！

還暦では赤い頭巾やちゃんちゃんこを贈る風習がありますが、その他の長寿祝いでは特に決まったものはありません。人生の区切りとなるお祝いなので、消耗品ではなく記念になるプレゼントや思い出に残る旅行や食事会などを贈るのがおすすめです。もし迷ったときは、傘寿で傘を贈るなど、長寿祝いの名称にちなんだものや長寿祝いの色の品を選ぶとよいでしょう。

プレゼントの金額の相場は、贈る相手が両親の場合は2~3万円、祖父母の場合は1~2万円、親戚などの場合は1万円前後、それ以外の場合は数千円程度とされています。少し高価なプレゼントを贈りたい場合は、家族や兄弟などと共同購入するのがよいでしょう。